

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873900488
法人名	吉田興産有限会社
事業所名	グループホームさくら
所在地	愛媛県北宇和郡鬼北町大字内深田1067番地2
自己評価作成日	平成22年1月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成21年2月2日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「利用者様から学び利用者様に還元する介護」を理念とし、笑顔と思いやりを大切に利用者様に寄り添いながら支援しています。  
ホームはゆったりとした自然環境の中にあり、ゆとりのある生活空間になっています。  
地域のニーズに対応しショートステイやデイサービスが利用できるよう多機能性を強化しました。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所で「納涼祭」を開催する際には、運営推進会議で内容等について話し合い、利用者や地域の方が楽しめるように、皿回し等の地域の方の出し物やダンスを披露していただいたり、地域の子ども達も来て、利用者とともにビンゴゲーム等を楽しみました。小学校の保護者の方の協力で敬老会やクリスマス会に子ども達の訪問があり、利用者の肩を叩いてくれたり、歌を歌ってくれたりして、楽しい時間を過ごされ、利用者から子ども達にプレゼントを渡された。又、事業所では、保護者の方達に「車椅子の押し方」等の講習をされる等、相互的に交流をされている。事業所通信「さくらだより」を公民館に掲示させてもらい、事業所の理解を拡げてもらえるよう取り組まれている。  
職員が気付いたことを出す「気付き箱」は、よく活用されており「ホットキャビ」等、利用者の介護に便利な物品の購入等にもつながっている。職員は、資格取得に熱心で向上心を持って触発し合い、ともに取り組んでおられる。精神保健福祉士の資格を有する職員もあり、利用者、職員のメンタルケアにも取り組んでおられる。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームさくら

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)  
氏名 富永きく子

評価完了日 2010年 1月 25日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域での役割を果たすべく理念と目標を考え、目のつく所に理念を掲示し、日々確認しながら利用者様と関わっている。 (外部評価) 「利用者から学び利用者様に還元する介護」と理念を掲げて「利用者から教えてもらったことを利用者と一緒にやる」ことを目指しておられる。又、介護理念には、地域のリーダーとなって交流を図ることを掲げ「地域に認知症の理解を深めてもらえるよう」に取り組みをすすめておられる。玄関を入れて目に付くところに毛筆で「笑顔 思いやり」と掲げておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 交流がもてるようにホームにて行事を企画し、地域の方々とのふれあいを大切にしている。 (外部評価) 事業所で「納涼祭」を開催する際には、運営推進会議で内容等について話し合い、利用者や地域の方が楽しめるように、皿回し等の地域の方の出し物やダンスを披露していただいたり、地域の子ども達も来て、利用者とともにビンゴゲーム等を楽しまれた。小学校の保護者の方の協力で敬老会やクリスマス会に子ども達の訪問があり、利用者の肩を叩いてくれたり、歌を歌ってくれたりして、楽しい時間を過ごされ、利用者からも子ども達にプレゼントを渡された。又、事業所では、保護者の方々に「車椅子の押し方」等の講習をされる等、相互的に交流をされている。事業所通信「さくらだより」を公民館に掲示させてもらい、事業所の理解を拡げてもらえるよう取り組まれている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 職場体験学習や福祉・介護実習の受入れ、ボランティアの受入れなどに積極的に取り組んでいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様の現在の様子やサービス提供情報等を報告している。また、今後の行事等を話し合い理解及び協力を得ている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>事業所では、会議や納涼祭等、地域の方との交流を重ねることに関係が深まっていると感じておられる。会議は、地域の有志者の方に司会進行をお願いされて、事業所からは、活動や利用者の現況を報告し、意見交換を行っておられる。会議は、奇数月の第3木曜日と決めて開催されている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>研修等の情報提供や、町の介護保険事業状況報告等を受け、運営に反映させている。 利用者様の入退院や入退所報告も定期的に行っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>法人代表者(管理者)は、キャラバンメイト養成講習を行われている。運営推進会議時に、町の担当者の方がプリンクラーの設置等について説明してくださったり、地域の方等からの介護保険等についての質問にも答えていただいている。今後、病院が主催で「地域密着型サービス事業所」が集り、勉強する機会を作ってくださいようになっていた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>研修会に参加したりケアカンファレンスを通して理解している。 安全上やむを得ない場合は、ご家族と相談し理解のうえ許可を得ている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>事業所の理事長が職員研修等をしてくださり、身体拘束等についても職員は、勉強をされている。現在、事業所は、介護度が重度の方も多くおられ、車椅子を利用されている方がずり落ちたり転倒等の「危険防止のため」に、抑制帯を使用されている方も見られた。</p> <p>ご家族にもご本人の状態を説明して、了解を得ておられ、現在は、ソファーに移って過ごす等、抑制する時間が短くなるような取り組みをされているところである。身体拘束のないケアの実践に向けて、ケアに工夫できることはないか全職員で話し合い、ケアの質向上に向けて取り組みをすすめていかれてほしい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  高齢者虐待防止教育プログラムを用いて学んでいる。日ごろのケアを確認し防止の徹底を図っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  成年後見制度を利用したこともあり、リーガルサポートの方とも連携体制が整っている。また、事業所独自にパンフレットを作成したり、研修会を開催している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約書・重要事項説明書に添い説明している。不安や疑問点を尋ね、質問にも回答している。介護報酬改定の際には、説明し納得を得ている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  苦情受付の第三者機関を掲示したり、意見箱を設置したりと、意見等がある時にはすぐに対応できるようにしている。 ご家族訪問時には直接話し合う機会をもち、意見、要望を聞いている。  (外部評価)  ご家族に事業所通信「さくらだより」や利用者個々の状況を報告する「状態報告書」「運営推進会議の議事録」を送付し、事業所の取り組み等を知らせておられる。又、お餅つきや節分等にご家族も誘っておられる。ユニットの入り口には、職員の名前入りの写真が掲示されていた。遠くに住まわれているご家族には電話やお手紙で連絡をされており、手紙でお返事をいただくこともある。職員の入替わり等については、玄関に掲示されたり、手紙等で知らせるようになっている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) スタッフ会議の時など意見や提案をだすことができるが、いつでも対応できるように、さらに、気づきの箱を設置し、意見や提案を自由にだせる環境づくりに努めている。 (外部評価) 他グループホームの新聞をいただき、事業所が発行する通信の見やすさ等の参考にされた。職員が気付いたことを出す「気づき箱」は、よく活用されており「ホットキャビ」等、利用者の介護に便利な物品の購入等にもつながっている。職員は、資格取得に熱心で向上心を持って触発し合い、ともに取り組んでおられる。精神保健福祉士の資格を有する職員もあり、利用者、職員のメンタルケアにも取り組んでおられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) アンケート実施や面接により個々の状態を把握している。勤務作成には職員の希望を聞き反映させている。資格取得のアドバイスなど向上心をもって働ける環境整備に努めている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に積極的に参加するよう支援している。資格取得のアドバイスを行い、実際に資格取得している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 全事業者とまではいかないが、他事業者のイベントに参加したり、参加していただいたりと交流を図っている。相互の活用できる資源を話し合い協力体制ができている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前に見学していただいたり、こちらから訪問したりして、本人、家族の心身・生活状況等の話を聞くようにしている。不安や思い、必要としていることを聞くことで安心感をもっていただけるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご家族の困っていることや要望等を聞き、思いを受け止めることで、個々にあった関係づくりができるよう努めている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人、家族の思いに向き合い、必要な支援を提案している。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>共に過ごし、学び、支え合う関係が築いていけるよう心がけ、お互いに助け合いながら生活ができる関係を築いている。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>訪問時に状態・状況を報告し、月1回1日ごとの状態報告を作成し報告することで、本人が安心して生活できるよう、お互いが支え合える関係を築いている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>馴染みの方が訪問された時には温かく迎え入れ、泊まりやゆっくり話せる環境づくりをすることで、また来て下さるよう努めている。 地域密着型サービスに移行する前から入居されている遠方の方に対しては馴染みの場所の写真を飾ったりする等の工夫をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>高齢のご家族で来訪がむづかしいようなご家族が、ご本人に会いに来られるように、事業所で送り迎えをされることもある。遠くにお住まいのご家族が来られた際には、泊まっただけのようになっている。知り合いの方の来訪時、お帰りの際、職員は「又、来てくださいね」と声をかけておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの性格や状態を把握し、利用者同士の関係がうまくいくように話を聞いたり、時には仲裁をしたりと調整役となり支援している。 たまにけんかもするが、お互いを気づかったり、病気の時には心配したりするいたわり合う関係ができています。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院退居がほとんどであり、入院時の洗濯やオムツ購入などの支援を継続して行っている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で、本人の行動や表情から、また何気ない会話の中から思いや希望を把握するよう努めている。	
			(外部評価) 要介護認定の更新時にアセスメントをして、ご本人の身体機能や生活状況等、現況の把握に努めておられる。 利用者とかかわる中で個々の希望等を知り、支援に努めておられるが、今後さらに個々から知り得た情報を蓄積し、アセスメントを工夫されて、さらに個々の思いの把握に努め、支援につなげていかれてほしい。又、職員は「残存機能を活かした支援」を目指しておられ、利用者個々の「できそうなこと」についても探り、支援につなげていかれてほしい。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居情報やサマリーだけでなく、前の事業者など関係者からも情報を得て、これまでの暮らしの把握に努めている。また、本人やご家族との会話の中からも情報を得るようにしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 「できない」ではなく「できること」を見つけ、その有する力が発揮できるよう努めている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 日ごろの関わりの中で思いや意見を聞き、本人がどのようなケアを必要としているのかモニタリングやアセスメントを元に意見交換を行い、よりよいケアになるように計画を作成している。</p> <p>(外部評価) 介護計画の作成前にはご家族に意向をうかがったり、職員で担当者会議を開き、ケアマネージャーがそれぞれの意見等を踏まえ、介護計画を作成されている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別にファイルを作成し利用者様の状態や暮らしの様子、会話、ケアの実践、気づきを記入している。職員の確認を義務付け、情報の共有を図りケアの改善に役立てている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人、家族の希望により通院介助を行っている。地域のニーズに対応して、デイサービス、ショートステイが利用できるよう多機能化を図った。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 小学校や保育園との交流会や、行事案内を受けたりしている。民生委員や消防の方の協力を得ながら支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価) 入居時に本人、ご家族より希望する病院を確認し通院 介助をしている。 個別に受診ノートを作成しご家族に報告及び相談をし ている。</p> <p>(外部評価) 利用者それぞれのかかりつけ医の受診時には、職員が 同行されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価) 協力医療機関からの看護師が訪問し利用者様の健康管 理や医療面での相談・助言・対応を行っている。ま た、看護ノートを作成し看護師と介護職員との情報の 共有を図っている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 入退院時には職員が同行し、本人の支援方法に関する 情報を共有している。 病院の交流会に参加することで情報交換や相談できる よりよい関係が築けている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 看取りの指針にて重度化や終末期に事業所が対応し得 る最大のケアについて説明し確認をとっている。具体 的には、本人、ご家族とともに医師と相談をし本人に とって良い支援方法を話し合っている。 しかし、全ての利用者様及びご家族と方針が決まって いないので今後話をしなければならないと思う。</p> <p>(外部評価) 入居時に、事業所で最期まで過ごせることを説明され ており、事業所で最期を迎えたいと希望する利用者や ご家族もある。</p>	<p>現在、事業所は介護度重度の利用者も多く、今後、ご 本人の意向をうかがったり、ご家族にご本人の状態を 詳しくお伝えして、医療機関とも話し合い、個々の希 望に沿った支援に向けて、取り組みをすすめていき たいと考えておられた。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 「AED」を設置し、外部講師より使用方法等を学んでいる。 消防から「救急救命法」の知識や技術を学んでいる。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練と、月1回の防火自主点検を実施している。 マニュアルを作成し全職員が対応できるようにしている。 車イスの方の居室入口にはマークをつけて、外部者が援助する際にはわかるようにしている。 (外部評価) 車椅子を利用されている方には、居室入口に飾っておられる絵の額に車椅子のマークのシールを付けておられる。避難訓練時には、非常階段から避難する訓練や布団を使って利用者を避難させる訓練も行い、職員が利用者の立場にもなり取り組まれた。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 尊厳について話し合い、利用者様への声かけ、言葉づかいに気をつけるよう職員の意識向上を図っている。 プライバシーポリシーを作成し周知徹底している。 (外部評価) おむつやパット等の介護用品等は、職員手製の布のカバーで目隠しをされていた。職員は「利用者は人生の先輩であり、日頃から言葉遣いに気を付けている」「嫌な思いをさせない対応」に努め「声かけを多くする等、精神面にも配慮したケア」をすすめておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人ひとりに合った言葉かけを行い、話し合うことで思いや希望を汲み取り、食べたいもの、着たいものを自分で決めることができるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な1日の流れの基、一人ひとりその日の心身に合わせた起床時間や、外気浴、散歩等行い、利用者様を尊重した個別ケアに取り組んでいる。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 起床時の着替えの際には、本人に洋服を選んでいただき、自己決定が難しい利用者様には季節、環境に応じた洋服選びを行っている。また、馴染みの美容室に行かれている方もおられる。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 地域住民の方から旬の食材を分けていただいたり、利用者様と一緒に畑に収穫に行き、そのまま食材として調理する等、楽しみをもっていただいている。また、下ごしらえ、配膳、下膳等、一人ひとりの力に応じた役割をもっていただいている。	
			(外部評価) 栄養士のアドバイスのもと、季節に応じた献立を立てて食事作りをされている。おはぎ等、利用者が以前作っていたものを教わったり、節分等の行事食の由来等も教えてもらいながらともに作っておられる。調査訪問時には、居間に設けられた流し台で下膳した食器を洗っておられる利用者も見られた。移動パン屋が音楽を流しながら来てくれ、利用者はそれぞれに好きなパンを買ってお金を払い、おやつにされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事形態や水分摂取方法等、一人ひとりの状態や習慣に合わせて支援している。 栄養バランスについては栄養士を配置している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの力や状態に応じて見守り・介助・義歯洗浄等を支援している。 口腔内の清潔を保つことは前提のうえ、口腔ケアを通じて食欲促進にもつなげている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用し個人の排泄習慣、排泄サインを全職員が把握することで自然なトイレ誘導を行っている。また、トイレの場所は利用者様に分かりやすいように表示している。 (外部評価) 利用者が入りやすいようにトイレの扉を開けておられ、使用中は、職員がそっと閉めるようにされている。利用者によっては、声のトーン・しぐさ等で排泄の合図をされるようである。それぞれの合図等を職員は把握して、トイレに誘導をされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘の原因・影響を理解し、朝、体操を行い腸を刺激する等の運動療法や水分摂取、良質の脂肪摂取、野菜を多く摂取する等の食事療法をおこなっている。また、おやつ時にヨーグルトや牛乳を提供し自然排便を促している。しかし、どうしても難しい時は本人の健康を考え内服薬を服用している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時には毎回利用者様に入浴の確認を促し、本人のペースで入っていただいている。また、季節や本人の状態に合わせて部分浴も行っている。 (外部評価) ゆず湯や入浴剤を入れて入浴を楽しむ方や浴室に2つ浴槽があり、お二人でおしゃべりしながら入られる方もある。介護度が重度の方には特に「気持ちいいですか」「痛いところはないですか」等うかがいながら入浴を支援されている。お風呂のない日には、足浴をされて、むくみ等のある方には軽くマッサージもされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入眠時間を決めるのではなく、利用者様のリズムに合わせた入眠を行っている。夜間眠れない利用者様に対しては、ティータイムの時間を設けたり、おしゃべりをしたり、時には添い寝をしたり等支援している。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの処方箋一覧表を作成しており、服薬の変更時や受診時には毎回記入し職員間同士の連携を図っている。 利用者様に副作用や異常があった場合には、主治医に連絡し指示や受診等行い対応している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) その人らしい生活を送っていただけるよう、本人に合った余暇活動(カラオケや園芸、絵を描く等)が送れるよう支援している。また、経験や知恵が活かせるように干し柿や梅干し、お茶作り等を行っている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者様のその日の体調や天候、移動時間等を考え安全に外出が行えるよう努めている。具体的には、大きな車を借り体に負担がかからないように配慮したり、ご家族に協力依頼し自宅に行く等の支援をしている。	
			(外部評価) 希望を聞きながら、中山池のコスモスを見に行かれたり、春には桜のお花見に出かけておられる。お正月には近くの神社に初詣に行かれたり、日頃は庭に出て過ごされたり、近くを散歩されている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご家族の協力を得て少額のお金を持ち、通院等の際には買物に行き自分でお金を払っていただけるように支援している。また、週1回の移動販売にて自由に買物ができるよう工夫している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人様の希望に応じて電話や手紙が出せるよう支援している。プライバシーや他の利用者様にも配慮し居室で会話ができるように子機を使用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>花や作品等を展示し季節感を、食事づくりの音やにおいなどで生活感を採り入れる工夫をしている。職員間の私語をつつしみ不快にならないように気をつけ、居心地よく過ごしていただけるよう努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>パーティーを行った際に、利用者を作り飾った折り紙の輪の飾りを外さず、時に、作った時のお話やパーティーの際の楽しかった思い出話をされるようだ。事業所内はきれいに掃除をされており、窓からは山々も眺められる。廊下には利用者が描いた絵や塗り絵等も飾られていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングにはソファやマッサージチェア、リクライニングチェアなどを置き、一人ひとりが思いおもいの場所でくつろげる。畳コーナーを設けごろ寝したり、庭に東屋を造り日向ぼっこをしたりとくつろげる居場所づくりを工夫している。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>安全面に配慮しつつ、居心地よく安心して過ごしていただけるようにしている。具体的には家具等運ぶのが困難な方には職員がトラックで自宅へ訪問に行き荷物を持ち帰ったりしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご自分のお部屋が分かりにくいような方には、居室の入り口のドアの取っ手に蛍光テープを付けておられた。冷暖房を付けて室温の調整をされたり、ご自宅からタンスを持って来られている方もあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>手すりの設置、車イス対応トイレの設置等により自立に向けた生活が送れるよう支援している。居室には分かりやすく縦書きで名前を掲示し、トイレは馴染みの言葉の「便所」と表示するなどの工夫をしている。</p>	